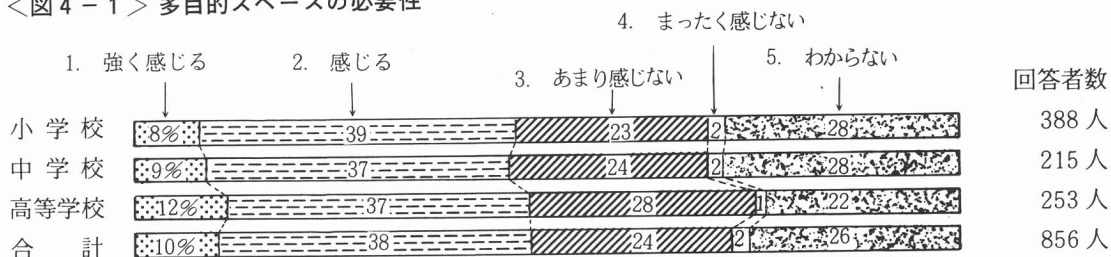


⑤ 多目的スペースがないが、その必要性を感じますか。

＜図4-1＞ 多目的スペースの必要性



。 4分の1の回答者が、「わからない」と答えている状況は無視できないだろうが、「多目的スペース」の必要性を感じている回答者は、約半数に及んでいる。

● 考察

県内でも多目的スペースを設置する学校が年々増加しているが、今回の抽出校の中でそれを設置しているのは、小・中・高等学校とも1校ずつであった。そのため多目的スペースの利用状況の傾向を見るというより、それを持たない学校の回答者の意識をみることとなった。調査の結果からは回答者が授業において多目的スペースを利用したいとする意欲がうかがえる。しかし、設置校の利用状況を見ると、「集会活動」が多く、今後は、日常の授業にどのように効果的に利用していけるのか、研究しなければならないものと思われる。

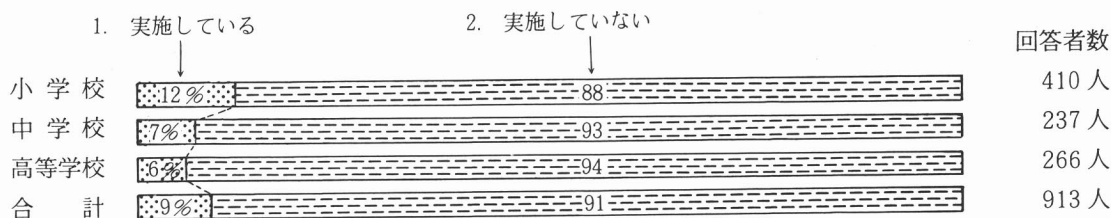
(2) ティーム・ティーチング

〔設問2〕 現在、「教師がティームを組み、協力して行う指導（ティーム・ティーチング）」の研究が進められていますが、このことについてお聞きます。

● 結果と分析

① あなたは、ティーム・ティーチングによる指導を実施していますか。

＜図4-2＞ ティーム・ティーチング（T-T）による指導



。 T-Tによる取り組みは、小・中・高等学校とも少なく、現状では一般的なものになっていない。

②ア. どの教科を対象に実施していますか。（複数回答可）

＜表4-4＞ 対象教科

	国語	社会	算数（数学）	理科	音楽	図画工作（美術）	体育（保健体育）	家庭（技術・家庭）	外国語	回答者数
小学校	1人	1	2	1	7	2	40	1	-	47人
中学校	0人	2	1	0	1	1	6	1	4	17人
高等学校	2人	1	3	1	2	3	1	0	2	16人